

都道府県・指定都市番号	33	都道府県・指定都市名	岡山県	研究課題番号・校種名	2(4)中学校
				領域名	ESD
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名(児童・生徒数)	岡山県都窪郡早島町立早島中学校(359人)				
所在地(電話番号)	岡山県都窪郡早島町早島2180(086-482-0109)				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.town.hayashima.lg.jp/juniorhighschool/				
研究のキーワード	キャリア教育との関連 やり抜く力 非認知能力 地域連携 保幼小中連携カリキュラム				
研究結果のポイント	○総合的な学習の時間の小中9年間を見通した単元学習プログラムの再構築 ○発達段階に合わせてICT等を計画的に活用した交流活動や系統的な探究活動の充実 ○単年度の活動で終わらないように、学年間のつながりを重視したカリキュラムの構築 ○探究的な学びを保障し、「やり抜く力」の育成につながることへの明確化 ○各学年で目指すSDGsを設定し、それを意識した教科等横断的な単元学習プログラムの構築				

1 研究主題等

(1) 研究主題

地域とつながり 未来を拓く ^{ひら} はやしまっ子の育成 ～ESDの資質能力の育成に向けた、中学校区での一貫カリキュラムの充実～
--

(2) 研究主題設定の理由

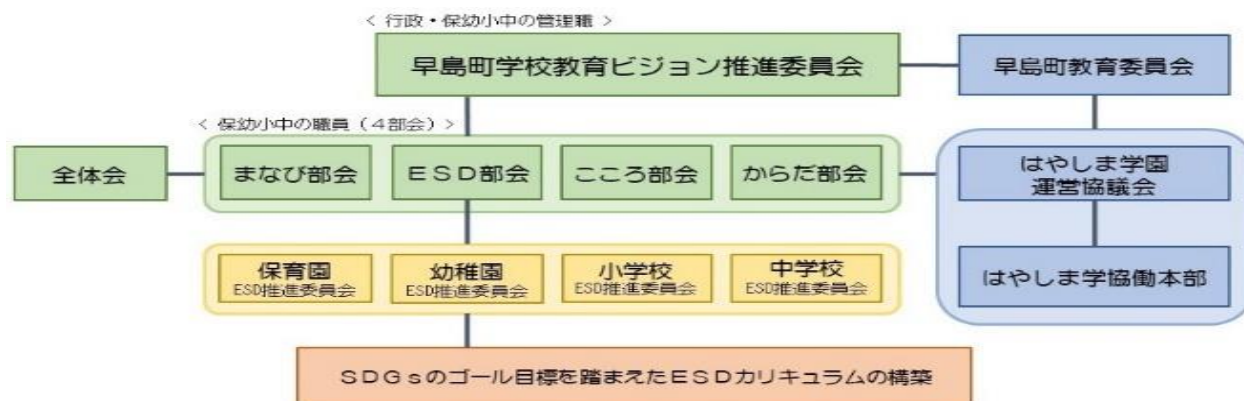
平成29・30年度に、早島町立早島小学校で国立教育政策研究所の研究指定を受け、「地域とつながり未来を拓くはやしまっ子の育成～ESDの視点を踏まえた保幼小中連携カリキュラムの構築～」の研究主題で、生活科・総合的な学習の時間等を中心に探究活動の充実や校種を越えたカリキュラムの作成を行ってきた。

この研究の成果と課題を踏まえ、本町において、15歳までに育てたい子供像を見据えて、小学校では町内での発信に留まったが、中学校では、県内外の中学校や海外との連携・発信を図りたい。総合的な学習の時間や教科等横断的な学習において、SDGsのゴール目標を踏まえた課題を設定し、ESDの視点で身に付けさせたい六つの構成概念と、「やり抜く力」を含めた八つの能力・態度と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点を関連付けながら、付けたい力を明確にした実践に取り組んでいきたい。

第1学年では、「福祉・人権」の探究活動を通して地域社会とつながり、自己理解を深める。第2学年では、「商品開発」を通して、伝統文化であるイ草や地域の特色等を関連付けながら、地域の活性化を図る活動を行うことで、地域社会への愛着や発展を願う。第3学年では、「共生」をテーマに探究活動を行い、世代や国を超えた国際人として共に生きようとする視点を持ち、自分の将来の生き方を考え、生涯にわたって学び続ける社会人に育てたい。こうした探究的な学習の成果が地域や社会に向かえばESDであり、生徒の内面に向かえばキャリア教育につながると考え、目指す生徒像を次の三点に定め、研究に取り組む。

- ①地域社会との連携を図りながら一人一人が当事者意識を持って探究活動を行い、身に付けた能力・態度を自分の生き方につなげる子
- ②持続可能な発展に向けて、様々な世代や世界の人々と協力・協働できる子
- ③グローバルな視点で、探究してきた考えを表現・発信・行動化できる子

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和 元年度	<p>6月21日(金) 地域フィールドワーク研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中の教職員が9地区に分かれて、ESDの視点で地域の宝物を発見した。 <p>7月30日(火) SDGsカードゲーム研修(青年会議所メンバー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トレードオフカード」を活用し、環境・経済・社会の視点でSDGsへの理解を深めた。 <p>8月3日(土) 児童生徒と地域の大人の意見交流会「熟議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と地域の大人で「住みやすい町づくり」をテーマに意見交流会を行った。 <p>8月6日(火) ESD研修(岡山理科大学教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを踏まえたESDの視点で身に付けさせたい授業づくりを再確認した。 <p>8月26日(月) ESD研修(岡山理科大学教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・W型問題解決モデルを踏まえた単元学習プログラム等をブラッシュアップした。 <p>9月25日(水) 保幼小中ESD研修(国立教育政策研究所教育課程調査官 小倉恭彦氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の総合的な学習の時間の授業を公開し、研究協議を行った。その後、「教科横断的な視点から学校全体で生徒の資質・能力の育成」についての研修を行った。 <p>9月～10月 ESD研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けたカリキュラム・マネジメントの再構築を行った。 <p>10月10日(木) 数学公開授業・研究協議(岡山県総合教育センター指導主事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ESDの視点で数学を捉えよう」というテーマで授業を参観し、研究協議を行った。 <p>11月23日(土) 早島花ござピンポン世界大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生を実行委員長とし、地域の住民で構成された委員会が大会を企画・運営した。 <p>11月～12月 ESD研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でアンケート結果の考察・分析をした。 <p>12月21日(土) 児童生徒と地域の大人の意見交流会「熟議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題(交通安全・食育)について語り合い、意見を交流した。 <p>1月18日(土) 子供議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で探究してきたことを、早島町に提案・発信した。 <p>2月2日(日) 早島町駅伝マラソン大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早島町のイベントで改良を加えた商品を販売した。 <p>2月15日(土) はやしま子供フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で探究してきたことを、地域に向けて提案・発信した。
-----------	---

令和2年度	4月6日(月) ESD研修 ・ESDの取組を再確認し、各学年で目指すSDGsを設定した。
	5月～9月 ESD研修 ・各学年で教科等での横断的な学習カリキュラムを開発した。
	6月30日(火) 公開授業・研究協議 ・めあてや振り返りにおけるESDの視点を重視した教科等での実践について協議した。
	7月2日(木) ESD研修 ・各教科における「めあて」や「振り返り」について意見交換をした。
	7月25日(土) 児童生徒と地域の大人の意見交流会「熟議」
	8月19日(水) ESD研修 ・ESDカレンダー、年間指導計画のブラッシュアップを行った。
	9月25日(金) 保幼小中ESD研修 ・2年生のSDGs Weekにおける教科等横断的な学習の授業を公開し、研究協議を行った。
	11月～12月 ESD研修 ・各学年でアンケート結果の考察・分析を行った。
	12月12日(土) 児童生徒と地域の大人の意見交流会「熟議」
	1月22日(金) 保幼小中ESD研修 ・1年生の総合的な学習の時間の授業を公開し、研究協議を行った。その後、「探究的な学習の成果と非認知能力の育成」についての研修を行った。
	1月23日(土) 子供議会 ・総合的な学習の時間で探究してきたことを、早島町に提案・発信した。
	1月～3月 ESD研修 ・次年度に向けたカリキュラム・マネジメントの再構築を行った。
	3月6日(土) はやしま子供フォーラム ・総合的な学習の時間で探究してきたことを、地域に向けて提案・発信した。
	3月 研究成果をリーフレットやホームページ等で発信した。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 総合的な学習の時間等の単元学習プログラムの再構築と付けたい力の明確化

総合的な学習の時間等のカリキュラム・マネジメントを柱とし、保幼小中の相互連携による一貫カリキュラムの充実を図り、ESDの視点で重視する構成概念と能力・態度を単元ごとに明確にした。また、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の三つの観点と、ESDで育成すべき能力・態度を整理するとともに、キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力との関係性を明示し、付けたい力を明確にした単元学習プログラムを構築した。また、各学年での教科等横断的な単元学習プログラムの実践事例を作成した。

② 発信と発表の場の設定

文化祭、子供議会、熟議(児童生徒と地域の大人の意見交流会)、はやしま子供フォーラム、各種の地域行事等を学習成果の発表の場とし、社会に開かれた提案・発信をした。

③ 地域が抱える課題を踏まえた地域連携・地域交流

地域フィールドワークや商品開発などを通して、地域が抱える課題を把握し、課題解決に向けた考えを構築することで、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成を図った。

(2) 具体的な研究活動

- ① 「やり抜く力」を ESD の八つ目の能力・態度として位置付け、関係性を明確化
- ② 新学習指導要領の三観点と ESD で重視する能力・態度とキャリア教育の基礎的・汎用的能力との関係性を明確化
- ③ 探究的な見方や考え方の質の向上に向けた総合的な学習の時間における W 型問題解決モデルを踏まえた単元学習プログラム、ESD カレンダー、年間指導計画の再構築
- ④ 各学年で SDGs Week における教科横断的な学習カリキュラムの開発
- ⑤ 小中学校で統一した八つの能力・態度（「やり抜く力」を含む）を育てるグレード表（総合的な学習の時間や各教科）の作成
- ⑥ 自己評価能力を高め、主体的に行動する児童・生徒を育てるために、小中学校が連携して振り返りシートを統一
- ⑦ 研究成果をリーフレットやホームページ等で発信

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

【教師】

- キャリア教育と ESD の関係性を明確にすることで、ESD で社会への貢献する意識を高めていくと同時に、地域社会の抱える問題を自分の事として捉え、自己の生き方を見つめ直すカリキュラムの構築ができた。
- ESD の研究を通して、探究的な学習プログラムによって児童・生徒に身に付けさせたい能力や態度が明確になり、小中学校の教員がベクトルをそろえて指導できるようになった。
- 地域と密着した活動を行うことで、打ち合わせ等の回数が増えるなど、教職員の時間的な負担が多くなるように思えるが、3年間を通して計画的に単元学習プログラムを開発、マネジメントすることで、負担は減少し教育効果が高まると考える。

【生徒】

- 探究的な学習を通して、困難に立ち向かい、課題の解決や目標達成のためにいろいろと工夫しながら粘り強く挑戦する「やり抜く力」の育成につながった。
- ESD の八つの能力・態度を育てるグレード表において、発達段階に合わせて小・中学校で統一した評価規準を作成することで、児童・生徒の自己評価能力を高めることができた。

【地域住民】

- 地域と協働・連携して活動したことで、中学校の活動が地域に伝わり、その活動を理解して応援する企業や住民が増え、学校理解がより深まった。

4 今後の取組

- ESD の視点を取り入れた総合的な学習の時間における単元学習プログラムのカリキュラムについて小中学校の9年間を見通してブラッシュアップする。
- 保幼・中、小・中などの校種を越えたつながりを大切にしながら、発達段階に合わせて ICT 等を用いた交流活動も計画的に行うことで、系統的な探究活動の充実を図る。
- 教科等横断的な学習を行う SDGs Week がより効果的な活動となるように改善する。
- 小学校のキャリア教育の視点を踏まえたカリキュラムをさらにブラッシュアップしていく。